沢登り

奥岳渓谷・黒金谷

【報　告　者】一木・杉田
【日　　時】平成 18 年 7 月 30 日　　【天　候】快晴
【参　加　者】松下・杉田・一木

≪　報　　告　≫　＜報告者：一木＞

黒金谷は、奥岳周辺の沢の中でも最も初心者向けといわれているところです。今回は、私の希望でここを遡行することにしました。なぜならば・・、ビール祭りの翌日で、あまり早起きしたくなかったからです。メンバーは、松下、杉田、一木の三人。長尾さんは、昨日の遡行で足の爪を傷めてお休みです。特に目新しさのない顔ぶれで、ますますやる気が出ないところを、だらだら準備して、一番最後の出発となりました。キャンプ場から出発して、渓谷沿いの道を久しぶりに歩く。渓谷の美しさは 2 年前と変わっていないが、少し水量は多いようだ。ウラ谷との二俣まで歩いて入渓しようとすると、下流からデケヤマ谷パーティーが登場。早めに出発していたが、ずいぶん下から入渓していたらしい。しばらくは一緒になって進むが、デケヤマパーティーはちょっとした滝でも直登してキャーキャー楽しんでいる。おかげでなかなか進まない。はよいけよー、とも思ったが、みんなそれが楽しくてしょうがないみたいだ。確かに私も沢登りを始めた頃にはそんな新鮮さがあったのかもしれない・・、などと思いつつ、ナメと滝の中を進んでいった。のんびり進んで黒金谷との出合に着く。出合はガレていて、あまり興味を惹かれない。そんな中をしばらく進んでいくと、ハイライトである 200mナメが出てきた。

確かに遮ることなくナメが続いて、明るくてとてもきれいだ。ナメの中をヒタヒタと歩き、ナメが終わると急に倒木が出てきて藪っぽくなる。この沢の見所はここで終わり。後は藪とがレ歩きが続くのみ・・。ということで、楽しいところだけ味わって、ここで終了として引き返すことにした。（というか、初めからそのつもりでした。）遡行時間は約 2 時間だった。

【沢男二人の後ろ姿。濃い･･･】

沢下降も特に難しいところもなく、入渓点よりも下流まで戻って遡行終了した。

簡単な沢だし、緊張感はありませんでしたが、たまにはのんびりと楽しむ沢もいいな～、と思った一日でした。

＜報告者：杉田＞

長尾さんが足の調子が悪くてキャンセルになり、この日は松下、一木、杉田の３名。黒金谷は川上本谷から黒金尾根へ突き上げる超初級者向けの沢（沢と源流には載っていない)。遡行３時間程度ということで、少々物足りない感じでしたが、ゆっくりしたいという二人の意向（本当は早くビールを飲みたいだけ？）で行ってきました。

川上本谷の下部はナメがきれいで、なるほど日本百名谷だなと思わせる美しさでした。途中高橋パーティと遭遇しましたが、今年から沢へエントリーの海崎＆中村さんははしゃぎまくり！一方で意外にも沢は初めてという双川さんは、落ち着いて先頭を歩いていました。

黒金谷の階段状のナメ滝はとても美しく、昨日のクマガ谷とは一転、のんびりした遡行。ナメが終わったと思ったら、ガレ場が始まったので、ここで遡行は終わり、沢下降で下山しました。この日も昨日同様に、気温がぐんぐん上がり、まさに沢日和！比叡を登っている天本夫妻のシューズはおそらく溶ける寸前だったでしょう。

昼過ぎにキャンプ場に戻り、さすがに自分たちが一番早いだろうと思っていたら、中井パーティがすでに戻っていました。メンバーの体調が思わしくなかったようです。皆さん、飲み過ぎには気をつけましょう。それとこの日は山で死亡事故が発生し、中井パーティは下山後すぐに救助に向かっていました。下山するときに救急車の音が聞こえたのでヒヤッとしたんですが、まさかこの事故だったとは。

何はともあれ、今回は二日とも快晴に恵まれて、充実した二日間でした。気がついたら僕は何のお手伝いもやってない・・・と気付き、皆さんに申し訳ないと思いました。しかし、帰りの車中では爆睡でした。すいません。

また来年も楽しいビール祭りにしたいですね。お疲れ様でした。

【しっかり登れー！（ｂｙ　Ｍ下氏)】